







## 第3 遺言 ～相続？争続？トラブル防止のために～

いったい誰が相続人？ ～相続人と法定相続分～

## 相続順位

## 法定相続人と法定相続分

第1順位 子供がいる場合	配偶者  $1/2$	子供  $1/2$ ※人数で分割
第2順位 子供がいなく、 親がいる場合	配偶者  $2/3$	親  $1/3$ ※人数で分割
第3順位 子供と親が共にい なく、兄弟姉妹が いる場合	配偶者  $3/4$	兄弟姉妹  $1/4$ ※人数で分割





- 配偶者は常に相続人となります。
- 配偶者がいない場合は、上記の相続順位に従って相続します。
- 相続人となる子や兄弟姉妹が既に死亡している場合には、その子（被相続人にとっての孫やおい・めい）が相続人となります（「代襲相続」）。
- 兄弟姉妹が相続人となる場合、被相続人と父母の一方が異なる兄弟姉妹の相続分は、父母の双方を同じくする兄弟姉妹の相続分の2分の1となります。

## 遺言書 ～きちんと伝えたい、大切な人へのメッセージ～

遺言書とは、誰にどの財産をどれだけ相続させたいかを指定し、その指定に法的効力を持たせるものです。法律にのっとって作成された遺言書の記載は、法定相続分のルールに優先します。そのため遺言書は、ご自身の財産をご家族へ確実に託し、相続をめぐる紛争を防止するための有用な手段です。

## どちらにする？ ～自筆証書遺言と公正証書遺言～

遺言書には、自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言の3つの形式があります。このうち、自筆証書遺言と公正証書遺言の違いは次のとおりです。

	自筆証書遺言	公正証書遺言
作成方法	遺言者本人が全文（財産目録を除く。）・日付・氏名を自書及び捺印する	遺言者が公証人に遺言の趣旨を口授し、公証人が書面にする
保管方法	遺言者本人の判断により、自宅で保管又は法務局に預ける  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     法務局に預けた場合、                      ・長期間適正に保管します                      ・プライバシーを確保できます                 </div>	原本は公証役場において厳重に保管される
家庭裁判所の検認	必要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     法務局に預けた場合、                      検認は不要です                 </div>	不要
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成費用があまりかからない</li> <li>・自筆さえできれば遺言者本人のみで作成できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無効な遺言書になりにくい</li> <li>・紛失や改ざんのおそれがない</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に不備があると無効になる可能性がある</li> <li>・自宅保管の場合紛失や改ざんのおそれがある</li> <li>・自宅保管の場合相続人に発見されないことがある</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用が必要</li> <li>・証人が必要</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     法務局に預けた場合、紛失等のおそれがなくなります                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     法務局に預けた場合、関係相続人等に遺言書保管の事実を通知することができます                 </div>